

令和7年度 国立若狭湾青少年自然の家 教育事業  
 「地域探究プログラム オリエンテーション合宿」 R7.8.6 (水)～8.7 (木)、8.20 (水)

◆目的

- ・ 探究の過程において課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。
- ・ 3日間で「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを学ぶ。

◆参加実績

- ・ 高校1年生 男子 1名 (愛知県1)
- ・ 高校2年生 男子 1名 女子 1名 (福井県1、京都府1)
- 合計 3名

オリエンテーション合宿 (個別参加型) 参加募集チラシ

2025年地域探究プログラムオリエンテーション合宿

日時: 8.6(水)～8.7(木) 8.20(水)

会場: 福井県立海浜自然センター

費用: 4,800円 (予定)

対象: 高校生 (定員15名程度)

申込: 8月15日(日)まで

申込先: 国立若狭湾青少年自然の家

TEL: 0774-24-2100

URL: www.natsukawa.jp

◆日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
8月6日(水)				受付(海浜自然センター)	開講式・ガイダンス	講師 前田 和代 様 「地域づくりの実践」	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	昼食(弁当)	移動	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」		「地域理解」	夕食(食堂)	「地域理解」					
8月7日(木)	起床	朝のひととき	清掃・荷物移動 朝食(食堂)	移動(東浦公民館)	フィールドワーク② 「地域の課題の研究」	昼食(弁当)		「地域課題の探究」		「発表会①」	解散(東浦公民館)								
8月20日(水)				集合(敦賀市立図書館)	「行動計画の基礎」	昼食(弁当)		「進捗状況交流発表会」		閉講式	解散(敦賀市立図書館)								

フィールドワークの内容

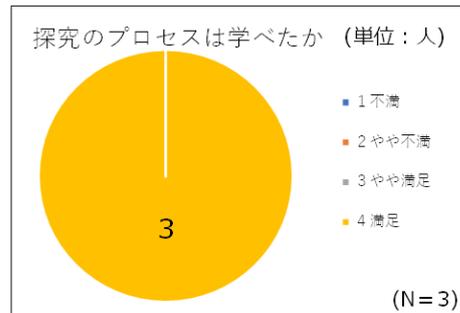
- 1日目：フィールドワーク①～地域の魅力発見～
- ・ ビーチクリーン (海浜自然センターの浜)
  - ・ シーカヤック、スノーケリング (若狭湾青少年自然の家)
- 2日目：フィールドワーク②～地域課題の探究～
- ・ 講師への質疑応答



## ◆参加者の声（アンケートより）

### オリエンテーション合宿で学べたことは

- ・ひとりでするのではなく、頼れる人に頼ることも大切。
- ・探究することでやりたいことが見えてくる。
- ・自分の気持ちや疑問を解決したほうがよいため、「なぜ」ということをつぶやき口に出すことが大切。
- ・探究プロセスのサイクルを回し、プレゼン用資料を作るところまでできるようになったこと。
- ・これから役立つ考え方や発表の仕方等を学べた。
- ・自分の素直な気持ちや、自分がしたいことなど、自分についても振り返って考えられたと思った。



### オリエンテーション合宿で難しかったことは

- ・発表の際、何が大切でどう言えばよいかわからなかった。
- ・テーマを考えることが難しかった（自分の興味・関心と結びつけること、どこを深くするのか等）。
- ・たくさん考えて疲れた。（グループではなく個人なので）自分で考えることが難しかった。

### 自分の地域に帰って探究してみたいことは

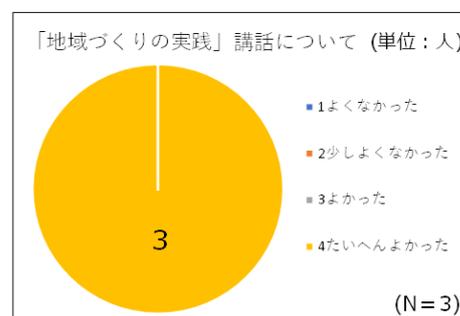
- ・海外の人との関わり。
- ・自分の近くの山にもごみが落ちていないかどうか。また、それをどのように改善するか。
- ・外国人にマナーを守ってもらうには。
- ・参加者の住む地域で起きている問題。

### オリエンテーション合宿で感じたことは

- ・アドバイスをもらって新しい発見があり、考え方が広がった。
- ・講師や、職員と話をしたり話を聞いたりして楽しかった。
- ・人数が少なかったことが参加者同士たくさん話せてよかった。
- ・時間をおいて自分の考えを整理することができ、生活や自分が探究したいことを見直せた。
- ・探究の在り方を詳しく学べた。
- ・オリエンテーション合宿で「五感を働かした活動後より」動物や植物、自然の生物が「何を考えているか」「何を言っているか」等、今まで考えなかったことを考えるようになった。
- ・今まで大変だと思っていた「問い」を考えることが今回「なぜ？」を考えることが楽しかった。
- ・海や山を感じることで、新たな疑問が出てくることにつながった。また、自分の考えを書き出し話し合うことが大切で、まとめることによって自分のすべきことが見えてきた。

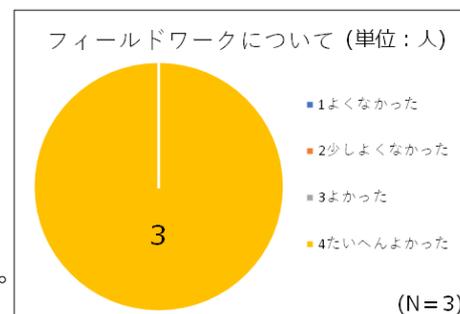
### 「地域づくりの実践」の講話について

- ・クリーンビーチの活動が楽しそうだと感じたため、機会があれば参加してみたい。
- ・活動の「大切なこと」「楽しいこと」「考え方の変化」などおもしろくて勉強になった。
- ・海の問題について今までよりも身近に感じた。
- ・まだ知らないことが多く、聞くことができてよかった。
- ・海藻がなくなっていたことについても調べていたのでまた調べてみたいと思った。



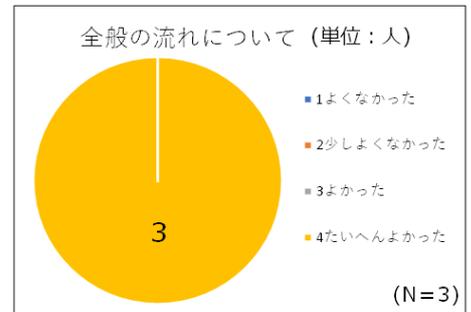
### フィールドワークの内容について

- ・ビーチコーミングの活動を通して海やごみ問題を身近に感じる事ができた。
- ・五感をこんなに意識して活動をしたことがなかったのでやってみると自然の魅力に気付けた。
- ・目を閉じて自然を五感で感じると自然の大きさに心を震わされた。
- ・インターネットばかりの生活なので、目を閉じたときに心が落ち着いていた。



## 「探究オリエンテーション合宿」全般の流れや内容について

- ・最近忙しかったので心が落ち着き、魚がたくさん見られてうれしい気持ちになった。
- ・今までも探究活動をしてきたが、改めて考えることができ楽しかった。
- ・普段感じないことに対して、問いや疑問が出てきてとても面白かった。
- ・発表準備では緊張したが、前に出ると楽しく発表することができた。
- ・ほかの参加者の考えや疑問を通して、自分では思いつかない疑問がたくさんあり、考えが膨らんだ。
- ・実際に体験することで、自分事としてとらえることができた。普段ではできないようなことが多かったが、清掃活動は今後も継続していけそう。
- ・探究学習を全く知らない状態での参加だったが、一から考え方を教えてくれたり、一緒に考えたりしてやり方が分かった。また、発表することで探究の楽しさが分かった。



### ◆成果

- ・今年度のテーマを本施設として特色である「海」として実施した。活動プログラムを活用しながら「魅力発見」のコマのフィールドワークを近隣の海型施設の前田氏とともに実施することができた。
- ・テーマを職員の普段から慣れ親しんでいる海をテーマにしたことで、参加者の質問や疑問を一緒に相談しながら考えることができ運営しやすかった。
- ・参加者は3人だったので、一人一人に丁寧に対応することができ全員満足感をもって帰ることができた。
- ・発表会①も進捗状況発表会も発表後の質疑応答、付箋でのコメント渡しを行った。たくさんの意見をもらうことで考え方に幅や深みが出たように感じる。
- ・昨年度は探究的思考で「考える」を参加者に体験してもらうことを大切に進めたが、今年は探究プロセスのサイクルを回すことに焦点を置き、職員の方から提案もしながら進めた。各自「問い」にするものは違っていたが同じような進捗で進めることができた。
- ・クリーンビーチでは、どんな種類のごみが多いのか、どれだけの量があるのか、自然の家での海活動では「海上で目を閉じて30秒」等、参加者自身が実体験を通して学ぶことができたことで「自然のよさ」を感じ、そこから目の前の自然を守りたいという気持ちが3人とも膨らんだ。
- ・さまざまな大人との関わりを組み込んだため、環境の枠を越えて、人としての考え方にも触れる場面が数多くあった。前田氏の「一人でなく、周りの人と協力して進んでいく姿」は学びになったと感じる。

### ◆事業運営のツボ・工夫・反省

#### ○広報について

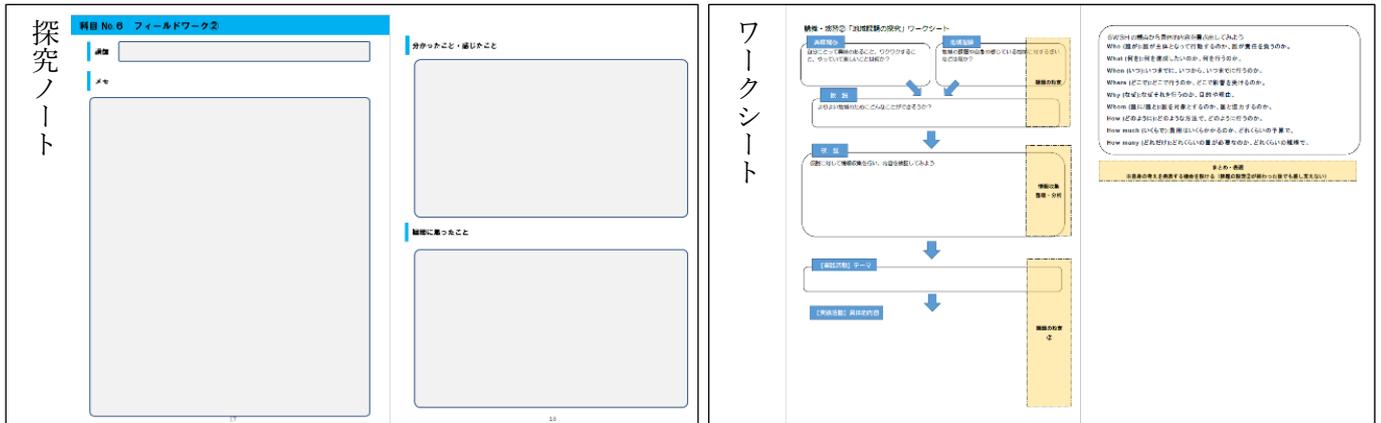
- ・今年度、嶺北地域の各高等学校へのメール送付を高校教育課へ依頼したものの、同課では当該対応を行っていないため、送付ができなかった。各学校のHPにもアドレスが書いてないため、学校へ広報をする方法について、今後検討が必要。
- ・今年度は海を探究するというテーマを前面に打ち出して広報を行ったが、募集にはつながらなかった。オリエンテーション合宿として探究プロセスのサイクルを回してみることに視点を当てた方が参加者獲得につながったのかもしれない。

#### ○日程について

- ・「行動計画」のコマ以降はオリエンテーション合宿で学んできたことを生かして、自分の探究課題に取り組む活動になるため、日程を2泊3日から今年度は1泊2日と1日に変更して実施した。
- ・日程を2泊3日から今年度は1泊2日と1日に変更したことで、活動時間が大幅に激減した。カリキュラム的には時間内には収まったが、少しせわしく動かないといけない部分も見られた。活動と時間の再調整が必要。
- ・オリエンテーション合宿の2週間後に「行動計画」と「進捗状況発表会」があり、参加者は、振り返りながらまとめる時間的余裕があり、よかったという意見が多かった。

○探究ノートと資料について

- ・気付いたこと、感じたこと、疑問などを探究ノート※に書くように伝えることで、普段よりも感度を高くして物事に取り組んでいるように感じた。振り返りや問いを導くワークシート※など、細かく区切って参加者に質問することで整理がしやすくなったように感じた。(※下記に資料を添付)



○発表②について

- ・発表時の原稿作りを「学校の探究で発表の仕方を学習している参加者」と「していない参加者」で伝える順序の差が見られた。発表原稿のテンプレートのようなものがあったとしてもよいかもしれない。

テンプレート例

- ① なぜこの題材にしようと思ったのか (現状、取り組み)    ②仮説    ③具体的内容    ④効果    ⑤まとめ

ガイダンス



地域づくりの実践



地域理解



## 問題解決の基礎



## 地域課題の探究



## 行動計画の基礎



### 発表①



### 発表②



## 閉講式、修了書授与

